

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年12月31日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	オタゴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界:商社・貿易)		6. 起業
	<input checked="" type="checkbox"/> 7. その他(海外)		

派遣先大学の概要

ニュージーランド南島南部に位置するオタゴ地方ダニーデンにある大学。医科や歯科などの医学系専門コースで有名。ダニーデンは学生都市であり、学生寮、学生用共同住宅などが大学の周りに数多くある他、街を歩く人の平均年齢も非常に若く、スーパー、服飾店、レストラン・ファストフード店、映画館等学生の生活に必要な施設が徒歩圏内に揃っている。学生はニュージーランド全国からやってきており、更に留学生の数も多い。

留学した動機

高校生時に一年間の交換留学をニュージーランドにしていた。その際の生活が日本のものとは異なっており、それを大学に入って自分の視野も広がった後にまた経験したいと思った。前は言語が大きな壁となり、文化等それ以外の側面がややこの次となってしまった。その後悔、ニュージーランドに対する愛着、異文化への興味、そして海外の人との交流への意欲が留学するという決断に繋がった。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部3	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2018年	1月~	2018年	11月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2019年	学部5	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	学部4	年生の	3月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			57単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			16単位	
	留学後の取得(予定)単位			73単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

ニュージーランドでの学事歴に沿ってキリの良い期間での学習をしたかった。同時に就職活動の時期になんとか間に合うように帰国をしたかった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

とにかく時間に十分な余裕を持って、漏れのないよう確認をしながら進める必要があると痛感した。手続きの種類が多くあり、揃えなくてはならないものも多いため。留学先大学の担当者に問い合わせることなどもあった。疑問がある時はためらわず直接聞いてみるのも良い手段だと思う。基本的に全て英語であるが面倒臭がらずに細部まで確認することがかなり重要だと思う。自分は寮関連の申請を別に行わなくてはならないことに期限が過ぎてから気づいたため、追加の手続きと余計な不安感を生んでしまった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

同上。冬出発の場合手続きが年末年始にかぶると不安になるため早め早めに。帰国便の提示が必要だったため、すぐに日時を変更するつもりで仮の航空券を予約したが、その変更をかなり長い時間忘れており直前になってやや慌てた。その他にも揃える書類が多くやや苦労した記憶がある。最終的にビザはPDFで送信され、それを印刷して携帯するよう指示された。他国派遣の留学生に聞いたことと異なっており戸惑ったがそれで問題はなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

留学先で医者にかかるると医療費が高く、英語での伝達も難しいため、やはり時間に相当な余裕を持って全て日本で済ませておくべき。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険に関してはよくわからなかったため、一般に推奨されるものに参加しておいた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

A semesterの途中で出国することがわかっていたため、授業履修の時点で各授業の担当教授に事情説明と履修可否の確認を行なった。授業によっては最後の試験を特例で早めに受ける、論文の提出を留学先からメールで行なうことを許可する、などの措置を取って頂いた。教務課には窓口やメール等を通じて必要な手続きの指示を受けた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

オンラインの英会話学習を毎日行っていた。英語の本も自分が好きな読みやすいものを見つけて多く読むように心がけていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)  
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Advanced Chinese 1	各18 (NZでの数え方)	●	TESOL	各18(同左)	●
Advanced Chinese 2		●	Syntax		●
Conversational Māori		●	Comparative Morphosyntax		●
Māori Society		●	Language Myths		
Psychology		●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>日本では副専攻にしている言語学の授業をメインで取った。その他中国語、ニュージーランドでしか学ぶことがないであろうマオリ文化と言語、そして以前から興味があった心理学等を履修した。授業スタイルや予習復習に関しては授業毎にかなり異なるため一概にはあまり言えない。履修人数も様々であり、5人前後から数百人まで規模は様々であった。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>取れる科目数の上限が1学期あたり4papers(paperはNZの授業の単位)であり、自分は各学期4papers履修した。これも授業によるが、1paperにつき平均して1週間に2~4時間の講義、1~2時間ほどの実習があった。自分の時間割は毎日2~4時間の授業で構成されていたが、友人の多くはもっと授業数が多かった。自分の学習に関しては、各教授の指示、同じ授業を取っている他の生徒のやり方、そして自分の理解度などを考慮して習慣をつくっていた。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>論文課題の多い授業ばかり取っていたため、英語のライティングにかなり苦労させられた。計画的に進めることと、文法や語彙の面は積極的に現地の友人に頼っていくことを強くお勧めしたい。聞き取りづらい英語を話す教授、声の小さい教授、ノートが追いつかないくらい授業ペースの早い教授など様々だが、これもやはりほとんど友人を頼ることと不安な点は教授に直接確認すること等が解決策になると思う。基本的に皆こちらが頼ることを歓迎してくれる。慣れない環境と慣れない言語での学習となるため、試験前の詰込みではなく日々の授業に確実に追いついていくことが、日本以上に大切であると感じた。</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p>
<p>日常会話はあまり苦労しなかったが、授業内での発言や発表、論文提出は苦労した。アカデミックな英語を使用しているアウトプットが日常生活でのそれとは全く違うということを痛感した。だからこそ前述の通り現地の友人に頼ることと時間に余裕を持って色々準備することが重要なだろう。友人との会話に関しては、「どうせ第二言語だから」と聞き直り、恥をかくことを恐れずに積極的に話した。そのおかげであつという間に仲の良い友人ができた。ネイティブの友人たちは、こちらが文法を間違えても思った以上に理解してくれるし、決定的な間違いは正してくれたり笑い飛ばしてくれたりする。また知らない言葉や用途のよくわからない言葉などはどんどん質問して良いと思う。そこから会話が広がっていく。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学近辺に沢山あるcollege(NZでの寮の呼称)の一つに滞在した。それぞれの寮に特色があり、自分が滞在したSt Margaret's college は勤勉な生徒が集まることで知られる寮だった。この風潮は自分に合っていたと感じる。それぞれの寮のデータはオタゴ大学のwebページから見るができるが、特色や風潮の情報をネットで集めることは難しい。自分はオタゴ大学に通ったことのある人をつてを辿って探し出し、それらの情報を得た。内部のつくりや施設、通う生徒の年齢層なども寮によって大きく異なる。ほとんどの寮が大学一年生中心である中、自分の寮は二三年生も多く滞在中の寮であった。アットホームな雰囲気、勉強に対するサポート体制、清潔さ、大学施設への近さ等、何をとっても申し分のない快適な寮であった。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>ダニーデンは冬寒くなると散々人に言われたが、東京程度であり耐えられないほどではなかった。寮内は常時暖かいため寒さに苦しめられた記憶はそんなにない。夏の暑さは日本よりはるかにましで、全体的に過ごしやすい気候であった。たまに大雨が降ると近くの川が増水してやや危険だったが洪水まで発展することはなかった。大学の概要で書いた通り、学生都市であるため大学近辺に全てが揃っており大学生には暮らしやすい環境。バスもあるが日常生活は基本的にいつも徒歩移動、交通機関を使うのは休暇に遠出する時くらいだった。お金に関してはNZの銀行口座を開設しそこに親からまとめて送金してもらった金額を注意しながら使っていた。管理は家計簿アプリと銀行のアプリを用いて行った。NZはキャッシュレスが進んでおりeftposという制度の利用が一般的だった。</p>

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
<p>学生都市であり治安は非常に良い。NZという国自体、基本的に治安上の心配はない。唯一気をつけたのは夜に危険な地域付近を1人で歩かないこと。派手なパーティーをして酔っぱらった学生たちが路上で騒いでいるため。どの場所が危険かを現地の友人に聞いておいて夜間そこを避ければ問題はない。心身の健康に関しては、寮で三食食べる、近くにあるジムに日常的に通う、友人と沢山話すなどして保っていた。</p>
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
<p>通常の授業期間:月2.5~3万 外食・軽食:1万、娯楽:0.5万、その他諸費(生活品、教科書等):1万          休暇期間を含む月:月6~9万 交通費:3~4万、外食・軽食:1.5~2万、娯楽:1万、その他:1~2万          ※寮は1年分一括払い(年間150万円)の為上記に含めず。朝昼晩三食が寮で提供される。</p>
・留学に要した費用総額とその内訳
<p>計約230万円          オタゴ大学(Student service fee):10万、寮:150万、娯楽(旅行など):15万、外食やスーパーでの買い出し:15万、交通費(航空券や旅行時の移動費含む):25万、その他生活諸費(教科書、電話代等含む):15万</p>
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
<p>東京大学を通じてJASSOから毎月7万円の奨学金を受給していた。</p>
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
<p>寮での生活が充実していたため寮外のコミュニティではあまり活動しなかった。現地の学生に日本語を教えるボランティアを週1~2回行っていた程度。週末はたまに寮の友人と外食したが、その他は平日と変わらず友人と一緒に勉強していた。長期休暇はニュージーランド国内の別の都市に旅行した。</p>
<b>派遣先大学の環境について</b>
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
<p>サポートがあることは知っていたがあまり必要とする場面には遭遇しなかった。留学生や国際生が多い大学であり、またNZ自体が移民を山ほど抱える国であるため、教授も生徒も第二言語としての英語話者に慣れている。そのおかげで苦労は少なかった。</p>
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
<p>朝早くから夜まで開いている大きな図書館がいくつもキャンパス内にある。Wifi環境も良好。寮から徒歩10分くらいの場所にジムがありそこも長時間開いている。バドミントンやバスケ等もそこで行える。</p>
<b>留学と就職活動について</b>
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

<b>②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響</b>	
語学力、思考力、視野など、留学によって自分の能力が高められたように感じる。自分のやりたいこともよりはっきりした。留学中に語学が不自由な中沢山の友人をつくり充実した生活を送れた、という事実が、自分に欠けていた自信を与えてくれたとも思う。	
<b>③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)</b>	
オンラインでインターンシップを探して応募した。出国前にもっと就活について調べておき、留学先で時間がある時などに業界研究や企業研究、自己分析等できることをやれば良かった、と帰国してから後悔している。	
<b>④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください</b>	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: )
	3. 公的機関(機関名: )
	4. 非営利団体(団体名又は分野: )
	5. 民間企業(企業名又は業界: )
	6. 起業(分野: )
	7. その他( )
<b>留学を振り返って</b>	
<b>①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感</b>	
自分は留学をして良かったと心から思っている。学業面と精神面両方での成長、そして一生モノの友人、これらが留学の大きな成果であった。しかし同様に留学を経験した東大の友人たちはそれぞれに全く違う体験をしており、留学に対する感想や考えは人によって非常に大きく異なっている。全ては縁と巡り合わせ、それから自分に与えられたものをどう捉えどう生かしていくかではないだろうか。留学の体験は言葉で簡単に語り切れるものではない。もう少し留学から時が経つとまた自分の中での解釈も変わるかもしれない。ただ今はこの素晴らしい経験それ自体と、それを可能にしてくれた全てのことに感謝する気持ちで一杯だ。サマースクールも含めたこの11か月間は、これまでの自分の人生の中で間違いなく最も充実した最高の時間であった。	
<b>②留学後の予定</b>	
まずは就活である。英語を使う機会があること、多文化理解と人との交流が要となること、この二つに合致する仕事を得たいと希望しているが、こればかりは現時点ではなんとも言えない。もう一年東大で勉強して卒業し、願わくばすぐに就職し、その後日本企業でしばらく働いて自分を更に成長させ、そしてゆくゆくはまたニュージーランドになんらかの形で戻りたいと考えている。	
<b>③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス</b>	
悩んでいるなら思い切って行けばいいのではないかと思います。留学の経験は一人一人全く違うので、人の話はあくまでも参考程度にして、自分自身で体験するのが一番です。	
<b>その他</b>	
<b>①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物</b>	
特になし。困った時や悩んだ時は日本やニュージーランドの友人に頼った。	
<b>②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。</b>	